

広島大学理論物理学研究所について

成 相 秀 一

本研究所が設置（昭和 19 年）される機縁となったのは、一般相対論と量子論との統一を目指して故三村剛昂教授によって提唱（昭和 9 年）され、本学の前身たる広島文理科大学の理論物理と幾何学両研究室の人々によって展開された波動幾何学の研究である。原爆の結果、有力な研究メンバーと庁舎・研究設備とが失われてしまったが、三村所長の出身地である竹原市から敷地と庁舎の寄付があって、昭和 23 年に瀬戸内海に面した現在地に移り、再建時代に入った。爾来 28 年、全国の諸大学から気鋭の研究者を集めつつ研究が進められたので、重力理論や場の理論および宇宙論に関して世界的にもその存在が知られるようになった。昭和 42 年には新庁舎が完成したが、広島大学の酒都西条を中心とする東広島市への移転に伴い、10 年後にはそちらへ合流の予定である。

研究所の 4 部門（重力理論・場の理論・時間空間理論・宇宙論）の中で、天文学に直接関係のある宇宙論部門は、成相・富田・富松の 3 教官と 6 名の大学院生とからなっている。小生の赴任した当時（昭和 28 年）は、三村所長が天文学における両巨頭であった萩原雄祐・荒木俊馬

2 先生と親交があったこと及び水沢の池田徹郎先生ならびに基研在職中の早川幸男教授一行が来所されたことを除いては、本研究所のメンバーが天文学者と直接接する機会はまれであった。しかし、前後 10 年の間隔があるとはいえ富田・富松両君の赴任によって天文学会の人々との交流は次第に盛んになってきつつある。私の所で天体や宇宙関係の研究会をやったのは、京大の佐藤文隆・松田卓也・武田英徳 3 氏関係が 2 回、東大の加藤正二氏（現京大）および近藤正明氏関係が各 1 回だけであるが、非常勤講師（研究所の全メンバーで聴講）としていただいた例はかなりの数にのぼっている。旧くは、清水疆・林忠四郎の両先生や高瀬文志郎・青木信仰の 2 氏であるが、昭和 40 年代に入ってから、大野陽朗・浜田哲夫・小暮智一・森本雅樹・小平桂一・内田豊・藤本光昭の諸氏においてをいただいている。院生の増加につれてもっと多方面の方々に来ていただくようになると思うが、本年度は高瀬文志郎氏の来講が決っている。なお、東広島市への移転を待つまでもなく、総合科学部で一人頑張っている内海君の所との交流もより活発になるよう念じている。

会議中使われる言葉はほとんど英語です。これは天文学に限らず現在ほどの分野でもそうでしょう。全世界の天文学者の交流のためにはやむを得ないことだと思います。話の内容がわかっているれば話される言葉は理解されるものなので、言語のことよりも天文学の研究が大事なほうというまでもないことですが、ここでは英語についての問題を二つ提起しましょう。一つは我々にとっての英語の訓練のことでもう一つは英語国民の英語の使い方についてです。現在の日本では英語を話す機会も多いし、ラジオ、テレビ、カセット等練習の機会も豊富にあるので、1対1の会話ならこなせる人が多いのではないかと思います。会議にでると多数を相手に話したり、多数を対象としている話を聞く訓練が必要だと感じます。英語国民についての問題は非英語国からの参加者もいることを考慮して話して貰いたいということです。会議が英語で行われるためにディスカッションになると英、米からの参加者だけが発言しているという現在の風潮は好ましくありません。このことをイタリア、フランスの友達に話すと「そうだそうだ、その中に IAU で決議しよう」と賛成します。ドイツ人は勤勉でよく英語を勉強していると、言語構造が英語と似ていて苦勞しないでも理解できるらしいのとあまり乗ってきません。

受付のある大玄関や午前午後 1 回ずつある休憩のため

の広間はいろいろな国の言葉でワーッと鳴り響いている感じです。バベルの塔の話も或は本当だったのかしらと考えたりします。英、独、仏、伊、日、西、露……他に何種類話されているのか見当もつきません。この時の騒音のレベルが高い程個人の間での意見の交換が沢山行われるわけです。しかし、「会議の初めは皆元気があるから他国の人と話しをするが、終り近くになるとくたびれてきて自国の人とばかり話しようになる」という或る友達の観察はかなり当たっているようです。

夕方になると会議は終了ですがレセプション、音楽会、パレー、講演会、晩さん会……とプログラムは盛り沢山です。全部に顔を出していたらとても身体がもたないので半分位しか出席しませんでした。

第 2 週の初め頃から鉄道ストライキのことが話題になるようになりました。閉会式の前後に数日間行われるらしいのですが新聞を読んでもラジオを聞いても一つも様子がわかりません。そのうちに閉会式の翌日は確かにあるというのがいろいろな方面から耳に入るようになりました。フランスのストライキというのはこういうものらしいです。皆バスの予約やレンタカー等をして足の確保に懸命です。私は汽車が動いているうちに次の宿泊所まで行くことにして閉会式には出席しませんでしたので、最後の式の模様はお伝えできません。